

# 附錄資料編



附録資料編① 調査資料一覧

日本語単行本

- 藤山一雄『満洲の森林と文化』満日文化協会、一九三七年  
 林時民『新しき感情』詩集刊行会（東京）、一九三七年  
 林時民『新しき情感』詩集刊行会（東京）、一九三七年  
 竹内正一『氷花』作文発行所、一九三八年  
 三枝朝四郎編『第一回満洲國美術展覽會圖録』満日文化協会、一九三八年

- 古丁著・大内隆雄訳『平沙』中央公論社、一九四〇年  
 加納三郎『満洲文化のために』作文発行所、一九四二年  
 山田清三郎編『現地隨筆』満洲新聞社、一九四三年  
 山田清三郎編『建國列伝』第一卷、満洲新聞社、一九四三年  
 山田清三郎『満洲國文化建設論』芸文書房、一九四三年

日本語雑誌

- 『満洲公論』大連満洲公論社、一九三四年一月号、一九四一年四、六月号

- 『新天地』新天地社、一九四〇年新年号、一九四一年新年号、三月号  
 『満洲』満洲社、一九四一年五月号  
 『觀光東亜』日本国際觀光局満洲支部、一九四〇年七、八、一一、一二月号、一九四二年一、四、六月号  
 『短歌精神』創刊号、短歌精神発行所、一九四一年四月号  
 『満洲良男』満洲雜誌社、一九四二年二月号  
 『満洲観光』一九四一年一、一一、一〇月号、一九四二年二月号  
 『満洲公論』（藝文改題）新京満洲公論社、一九四三年一二月号、一九四四年一、二月号  
 『モダン満洲』（巻号、発行年月不明）

中国語単行本

- 古丁著  
 『奮飛』月刊満洲社、一九三八年  
 『一知半解集』月刊満洲社、一九三八年  
 『浮沈』満日文化協会・詩歌叢刊刊行会、一九三九年  
 『平沙』満日文化協会、一九四〇年  
 『談』「快読文庫」芸文書房、一九四一年  
 『譚』芸文書房、一九四二年  
 『竹林』芸文書房、一九四三年

『箱根風雲録』 楠田清等著・古丁訳、中央電影局東北電影製片廠、

一九五六年

古丁の翻訳

夏目漱石著『心』 満日文化協会、一九三九年一〇月

中島健蔵著『学生與社会』 芸文書房、一九四一年二月

石川啄木著『悲哀の玩具』 芸文書房、一九四三年一〇月

『窗前草』 何靄人編、益智書店、一九三四年

『火光』 百靈著、月刊滿洲社、一九三八年

『蝙蝠』 小松著、月刊滿洲社「城島文庫」、一九三八年

『少年發明家の故事』 趙曉光編、盛京書店、一九三九年

『獻給青年們』 李紫函著、益智書店、一九三九年

『山風』 山丁著、文叢刊行会、一九四〇年

『第二代』 梅娘著、文叢刊行会、一九四〇年

『雜感之感』 季瘋著、益智書店、一九四〇年

『日本史概観』 日本紀元二千六百年滿洲帝國慶祝委員會編、一九四一年

『小工車』 文選叢書』 王秋螢著、文選刊行会・益智書店、一九四一年

『去故集』 秋螢著、文叢刊行会、一九四一年

『泥沼』 「文選叢書」 袁犀著、文選刊行会・益智書店、一九四一年

『火』 「快讀文庫」 小松著、芸文書房、一九四一年

『世界名小説選』 王光烈編、滿洲圖書株式會社、第二集一九四一年、

第三集一九四一年、第四集一九四一年、第五集一九四二年

『譯叢』 芸文志事務會編、芸文書房、一九四一年

『北婦』 小松著、芸文志事務會、一九四一年

『季季草』 (詩集) 山丁著、詩季社、一九四一年

『魯迅伝』 小田岳夫著・外文訳、芸文書房、一九四一年

『鳳鳴山の深秋』 「快讀文庫」 疑遲著、芸文書房、一九四一年

『頤和園和萬壽山』 「快讀文庫」 非斯著、芸文書房、一九四一年

『歐陽家の人們』 「駱駝文學叢書」 爵青著、芸文書房、一九四一年

『沃土』 「東方國民文庫」 石軍著、満日文化協會、一九四一年

『近代世界詩選』 梁孟庚編、滿洲圖書株式會社、一九四一年

『米英侵略東亞史』 大川周明著、古丁・爵青・外文訳、芸文書房、

一九四二年

『英美罪惡史』 「滿洲国」 協和會編、芸文書房、一九四二年

『熱情的恋愛』 堀秀彦著・夏明訳、芸文書房、一九四二年

『滿洲文藝』 吳玉瑛編、滿洲圖書株式會社、一九四二年

『人和人們』 「駱駝文學叢書」 趙小松著、芸文書房、一九四二年

『菊里夫人伝』 (上) 爵青・吟梅 (訳)、芸文書房、一九四二年

『白雪遺音』 单更生著、芸文書房、一九四二年

『春』 鳥崎藤村著・杜白雨訳、芸文書房、一九四二年

『竹如小姐』 張文霖編、東亞書店、一九四二年

- 『老總短篇集』「駱駝文學叢書」楊慈燈著、芸文書房、一九四二年
- 『河流的底層』王秋蚩著、實業洋行出版部、一九四二年
- 『青年』林房雄著·張庸吉訳、太平所局（上海）、一九四三年
- 『貝殼』袁犀著、新民印書館、一九四三年
- 『同心結』疑遲著、芸文書房、一九四三年
- 『魯迅集』趙孟原編、芸文書房、一九四三年
- 『滿洲作家論集』陳因編、實業印書館、一九四三年
- 『野葡萄』趙小松著、芸文書房、一九四三年
- 『文學概論』王秋蚩著、實業印書館、一九四三年
- 『落英集』楊絮著、開明圖書公司、一九四三年
- 『牝虎』拜闊夫著·曲舒訳、新京書店、一九四三年
- 『諸相集』劉漢著、開明圖書公司、一九四三年
- 『中国旧小説選』王秋蚩編著、實業印書館、一九四三年
- 『教群』金音著、五星書林、一九四三年
- 『草梗集』辛嘉著、興亜雜誌社、一九四四年
- 『長吟集』外文著、興亜雜誌社、一九四四年
- 『子學概論』李松伍著、芸文書房、一九四四年
- 『櫻園』（詩集）杜白雨著、興亜雜誌社、一九四四年
- 『邊城集』石軍著、大地圖書公司、一九四四年
- 『蘇懿貞和她的家族』（小説集）新民印書館（北京）、一九四四年
- 『豐年』山丁著、新民印書館（北京）、一九四四年
- 『並欣集』興亜雜誌社編輯部編、新京興亜雜誌社、一九四四年
- 『我的日記』楊絮著、開明圖書公司、一九四四年
- 『炊桐集』成絃著、大地圖書公司、一九四四年
- 『匡廬隨筆』匡昨非著、芸文書房、一九四四年
- 『滿洲作家小説集』勵行建他著、一九四四年
- 『苦瓜集』小松著、芸文書房、一九四五年
- 『燈籠』方季良（滿克大）著、興亜雜誌社、一九四五年
- 『長夜螢火』梁山丁編、春風文芸出版社、一九八六年
- 『綠色的谷』梁山丁著、春風文芸出版社、一九八七年
- 『燭心集』梁山丁編、春風卯文芸出版社、一九八九年
- 『新民胡同』劉遲著、時代文芸出版社、二〇〇一年
- 『正中吟箋』李正中著、吉林文史出版社、二〇〇六年
- 『潯陽琵琶』任情著、滿洲雜誌社、年月不明（與付なし）

### 中国語雜誌

- 『水流』半月刊、北平水流社、第一号（一九三三年一月）二・三合本（一九三三年四月）、五・六合本（一九三三年五月）
- 『文學雜誌』創刊号、文學雜誌社編、北平琉璃廠·西北書局、第一号（一九三三年四月）、第三・四号（一九三三年七月）
- 『文藝月報』創刊号、立達書局（北平）文芸月報社、一九三三年六月

『斯民』 斯民社、一九三四年九月

『興滿文化月報』(奉天)、一九三六年七、八月、一九三八年六、七月、第六卷第一期、興滿文化月報社、一九四〇年一月

『明明』 月刊滿洲社、一九三七年四、五、七、八、一二月号、一九三八年一、三、五、七、九月号

『滿洲青年』 第一号、文教部禮教司編、一九三七年五月

『新青年』 第六四号 新青年社、一九三七年一〇月

『滿洲映画』 滿洲映画發行所、一九三八年一〇、一二月、一九三九年一、二、七、八月、一九四〇年一月、一九四一年一、二月

『興亞』 興亞社、一九三九年三月、一九四一年五、八、一〇、一月、一九四二年一、一二月合本、一九四三年一、二、五、八、一、一二月、一九四四年三、八、一二月

『藝文志』 第一輯、月刊滿洲社、一九三九年六月

第二輯、芸文志事務會、一九三九年一二月

第三輯、芸文志事務會、一九四〇年六月

『新滿洲』 滿洲圖書株式會社、一九三九年六月、一九四〇年九、一月、一九四一年三、六、八月、一九四二年一、二、四、一月、一九四三年一、二、五、七、一二月、一九四四年一、五、七、九月、一九四五年一月

『滿洲新文化月報』 滿洲新文化月報社(奉天)、一九三九年七、八月

『宣撫月報』 第四卷第九期、一九三九年一〇月

『文選』 第一輯、文溯書局、一九三九年一二月

第二輯、文選刊行會、一九四〇年一〇月

『滿洲國語』 滿語版一、八、滿洲國語研究會、一九四〇年七月、一九四一年三月

『讀書人』 趙孟原編、芸文志事務會、一九四〇年七月

『文學人』 趙孟原編、芸文志事務會、一九四〇年八月

『文最』 文選刊行會、一九四〇年一二月

『作風』 作風刊行會、一九四〇年一二月

『小説家』 芸文志別輯、趙孟原編、芸文誌事務會、一九四〇年一二月

『學藝』 學芸刊行會、第一輯、一九四一年二月、第二輯、一九四二年一月

『國民畫報』 半月刊、滿洲社、一九四一年五、九、一〇月、一九四二年一月

『電影畫報』 滿洲雜誌社、一九四一年一〇、一二月、一九四二年一、三、四、六、八月

『滿洲文藝』 吳玉英編、圖書株式會社、一九四二年二月

『國立華北編訳館館刊』 國立華北編訳館、一九四二年一〇月(創刊号)一、二、三月、一九四三年一、二、三月

『民生』 旬報、民生報社出版局、第一卷一〇、一二(一九四三)号、第二卷一、七、九、一九、三二、三十三号

- 『新潮』滿洲經濟社、一九四三年七月、一九四四年一〇月
- 『青年文化』滿洲青少年文化社、一九四三年八月（創刊号）～二  
月、一九四四年一～六月、一九四五年一・二月合併号（終刊号）
- 『放送文化』滿洲放送出版社、一九四三年一〇～十一月
- 『藝文志』滿洲芸文聯盟・芸文書房、創刊号（一九四三年一月）～  
一二月号（一九四四年一〇月）
- 『書影』滿洲書籍配給株式会社、一九四四年五月（創刊号）、六月号
- 『日本研究』（北京）一九四四年七、九～一二月号
- 『文友』文友社、一九四五年一～六月号
- 『東北文學』創刊号、東北文學編輯部編、国民図書公司、一九四六  
年一月
- 『東北文藝』（古丁編）創刊号、「東北文藝」編集委員会、東北書  
店、一九四六年一二月
- 『東北文藝』創刊号、蔡天心主編、東北新華書店、一九五〇年二月

附録資料編② 雜誌の目次

『明明』（月刊滿洲社）

第一卷第二期（一九三七年四月）

表紙（郷土玩具 山越音） 明明画報：天才的な舞姫崔承喜（天才的舞姫崔承喜） 同聲同氣一德一心 美術雕刻解説 民謡曲高山流水 卷頭言 我滿洲國之政治動向（國務院總務廳長星野直樹） 張總理の私生活（張總理的私生活） 國務院秘書官松本益雄） 我聞如此…無線電聽取者激增 一 大人造湖の出現（二 大人造湖出現） 小人病の発見と予防法（発見小人病的予防法） 脱走蘇聯人之實話（平亮） 新人物題名 讀書之声…モダン日本語解説（摩登日語解説） 質疑応答 人類的祖先は何か（人類的祖先是甚麼 鳥居龍藏） 動物界之神秘（寺田文次郎） 春之漫画 民謡漫畫 一行博士 滑稽問答 可怕的狂犬病（内野捨一） 家庭衛生救急医療法 主婦的智識 評陶明濬教授著 紅樓夢別本（徐勿古丁） 皮黃劇的由來（任之） 銀幕上の兩位奇俠（張孝直） 懸賞徵文 詩：春之晨・黑夜（百靈） 夜遊（？田） 煙卷頭底悲哀（外文） 平

生（外文） 流浪者的心（楊葉） 古城之秋（唏哀） 閑話文壇（壇外人） 投稿簡章本社啟事 誤譯二三編輯後記 小説：提琴（古丁） 老張（藤更） 北荒（疑遲）

第一卷第三期（一九三七年五月）

表紙（山越音） 廟會的印象 明明画報：入江たか子 廟會素描 白雪映紅櫻 卷頭言 奉讀回鑾訓民詔書之感想（奉天省長葆康） 民謡曲小牧牛 我國家族制度與現代社会（趙馨葆） 一行博士 詩：海底夢（垠） 夜曲（小松） 閑話文壇（史之子） 小説：皮箱（古丁） 談清詩人黃景仁（痕沙） 學生習作：電影漫談（振趾） 悲哀心曲裏的微笑——關於女子職業不平鳴（曼曼） わが一生（我的一生 朱雲） 女教員之苦衷（耀崑） 主婦之智識 日語滿語講座 萬事不求人 銀星新劇研究社の処女公演を記す（記銀星新劇研究社の処女公演 史之子） 銀星劇社の公演を検討する（検討銀星劇社底公演 D・Q+孝直） 漫画 ムッソリーニその人（莫索里尼的爲人 H・哈密爾頓著） 隨筆通動「八四」（東） 詩・春の意向（春の意向 音口+宏） 投稿簡章 掌篇小説・三表嫂（視田） 家庭内常備薬と常備品（家庭常備薬和常備品） 干支判断 山丁花（疑遲） 醉言集（哈哈）



編輯後記

第一卷第五期（一九三七年七月）

封面（山越音）扉繪畫（池邊青李）明明畫報 日本青年宰相近衛公 我国家族制度與現代社会（趙馨蓀）人工營養法（尹紅綠）妻是職業嗎（伊長和）白話と文言（白話與文言 約翰・李非白）郷土文芸と山丁花（郷土文藝與山丁花 山丁）旧劇漫談（漫談旧劇 雨耕）映画短評（短評電影・十字街頭 柳浪）大作家隨話（史之子）漫畫（佐久間晃）文藝消息（刀輯）新作笑話（繡水）学生習作・校長（石青）春日遊龍首（育華）簡易汽水製造法 草帽復活法 洋墨水消滅法 中国新興文學展望（屈珍）詩・ゲレムとアラン（哥萊穆與阿蘭 素人訳）平凡な人（平凡の人 里雁）雨天（音宏）  
 小説・T村の年末（T村的年暮 田兵）翻譯小説失火之家（孟原）小説皮鞋（苦土）聾子（頤）小説 雁南飛（疑遲）小巷（古丁）編輯雜記 投稿簡約

第一卷第六期（一九三七年八月、文芸雜誌に切り替わる）

封面（木刻筏）詩 家園（魯棟）山婆（煉子）夜巷（森叢）痛苦

的一頁（素人）一個黑道日子（光）暗（古丁）「夕刊的消息」（小松）老師的威風（田兵）江風（疑遲）雨夜（徐萩）請老師（雲影）現段階文芸一課題（摩西）論文壇的性格（史之子）連載 漫画（佐久間晃）笑話（疑吾・繡水）時勢漫画 投稿簡章 編集雜記 特別徵文滿洲新文學的踪跡（秋蜩）

第二卷第三期（一九三七年一二月）日本文學特輯号

明明畫報  
 日本文學紹介特輯 温泉旅館（吉田絃二郎著・徐萩）悲哀的玩具（石川啄木著・古丁）山狗（張赫宙著・陳夷夫）近代日本詩選訳（西條八十著・百靈）霧雨（今井達夫著・文泉）關於日本文壇（矢崎彈著・之子）東遊印象記（趙夢園）映画協會在製作着什麼（龜谷利一著・刀）映画協會女星座談会（記者）關於心的演出（島津保次郎著・幾何）小説・月亮雖然落了（疑遲）

第二卷第四期（一九三八年一月）

明明畫報  
 迎康德五年之辭（城島舟礼）…新年感想（呂采寰）希望（柴野少佐）未來之滿洲新興文藝（陳邦直）夢和現實（莫伽）我對於明年

的夢想（楊白蓬）說夢以及唾痰（史之子）夢想一九三八年（夷夫）一九三八年（百靈）明年該也有一個春天（劉郎）新夢（SS生）我對於明年的夢想（田兵）想到明年（石軍）夢想一九三八年（瑛子）

狂人日記（果戈理著·古丁）翔兒的墓誌（信風）「雷雨」人物與性格（君君）「明明」編者言（毛利）電影·滿映及其他（冷某）文學的自叙傳（林芙美子著·滕更）旅途隨紀（徐匆）文化消息（刀輯）閑話文壇的一年（力子）野孩子的正月（蕭牧玲）編輯雜記 投稿簡約

### 第三卷第一期（一九三八年三月）一周年記念号

封面（高夢幻）畫刊（荒馬意大利吉里果）城島文庫刊行辭（城島舟礼）  
百枚長編·原野（古丁）洪流的陰影（小松）長詩·鑄劍（外文）  
野店（百靈）美國詩人桑德堡（洪光友）失了故鄉的人（稻川朝二路）閑話索倫（華雄）電影圈贅語（XYZ）阿了式（田兵）冬晨（普希金著·劉郎）故事叢叢·火鷄之死（西條八十著·沙西）一個奇異的故事（M. Zoschenko 著·光友）隣三人（袁犀）我底文學修養（戈里基著·夷夫）關於巴爾札克的批評片斷（莫伽輯）  
關於國劇及音樂—節錄放送原稿—（陳英三）

### 第三卷第二期（一九三八年四月）

封面（高夢幻）畫刊（攝影 訥林生）翻譯小說·支那狗（傑克倫 敦光友）埃及之夜（普希金·滕更）長詩·麥穗下（苦土）收穫（森舒朗）海燕曲（戈里基·S 訊）山東衙棚巡禮（訥林生）批評與介紹·賽珍珠自叙傳（滴岩訊）巴爾扎克評傳（莫伽訊）創作·駝背嶺（石軍）馬（巴寧）編輯室投稿簡章

### 第三卷第三期（一九三八年五月）

封面（高夢幻）插圖（皮加索）關東州市民精神振興周間講演詞（韓雲階大臣）散文與詩·冬天的春天（百靈）假寐（古丁）後行吟（白蓬）高尚的兇獍（夜斧）寄姊妹（小門）生的憧憬（治宇）遼尚書孟有孚墓誌（羅繼祖）病（二舍）捨得的日記（石青）燈下隨筆（汪靈波）三味篇（古丁）關於私語（丁奉）草中（橫光利一·徐荻訊）靜安寺碑文（橫光利一·木風訊）父親（放送劇 百靈）歧（苦土）戈里基的文學論（莫伽）母與女（袁犀）風雨（石軍）『潯陽琵琶』（趙秋谷）編輯室投稿簡章

第三卷第五期（一九三八年七月）

封面（高夢幻）画刊（梅原龍三郎）華萊斯夫人（U·辛克萊著·  
黃河）再會（独幕劇 柳葉）

散文·荒地（古丁）旅人（小松）清明夜（藍汀）下班（春風）尋  
獲（汪靈波）雨天的寂寞（萍子）夜潮（舒錚）

六朝門閥思想之與社會（菲斯）盲人日記（微音）雜乱的一封信  
（林時民）我們的進行曲（馬亞柯夫斯基著·光友）夏夜（戈里基  
著·朝雲）偽装的「建設批評家」（辛嘉）爆開的群彈（鳥人）關於  
城島文庫的刊行（爵青）「熱情」與「忍耐」（顧影）批評家銳感  
（莫伽）Amateur 文人（山火）關於城島文庫（無名生）你我之分  
（巴寧）評「奮飛」（夷夫）  
創作：十天（袁犀）一個奇跡（勵行健）

編集室 投稿簡約

第三卷第六期（一九三八年八月）

表紙（高夢幻）畫刊窗（小林德三郎）黃昏的江湖（石軍）鄉村的  
孩子（陸林）浪淘沙（夷馳）普希金評傳（莫伽）墨書（古丁）這  
也是神的旨意嗎？（汪靈波）留學日本三年記略（遲伯昌）六朝門

閥思想之與社會（菲斯）短文與詩：偽醫（古丁）橋上（白蓬）孤  
獨者（辛嘉）黃昏（野矢）金少山與根岸寬一（衛道）金少山和看  
金少山的人們（小松）二十年（獨幕劇山火）地火（三幕劇 君  
頤）編輯室投稿簡約

一九三八年九月（第三卷第七期？ 表記なし）實質の終刊号

決算與展望（林時民）  
小說·夜語（小松）寧波船（勵行健）未來（巴寧）香火（王則）  
托爾斯泰晚年悲劇的真因（布魯瓦格夫著·石郎）  
詩二首·還鄉（森舒朗）生命的象徴（朗弗婁著·汪靈波）  
小說大徵稿 評文·評『花月集』（夷夫）『風雨及其他』（顧璘）閑  
話困碁（少虬）關於困碁天才家吳清源（少虬）  
隨筆集·悼念（黑逝）風雨和故鄉（劉郎）七月三篇（璇玲）群像  
自序（爵青）暴風雨自序（石軍）每月文評（MORRIS）  
封面 投稿簡約 編餘綴談

『藝文志』（藝文志事務會）

第一輯（月刊滿洲社、一九三九年六月一日、二二六頁）

藝文志序（城島舟禮） 所望於滿洲文學者（岡田益吉） 金石叢談（宝熙） 「藝文志」考（非斯） 盪兒歸來的日子（爵青） 一夜（夏目漱石作・古丁訳） 列女傳（王則） 窗（石軍） 施忠（小松） 祈禱（夷馳） 二十年（西原） 春底事蹟（君頤） 成吉思汗（長編史詩 百靈） 鄭海藏先生的詩（少虬） 培根隨筆四則（Bacon 作・辛嘉訳） 未完成的文學自叙傳（大内隆雄） 再生集（金音） 風雨之海（袁犀） 春香傳（張赫宙作・外文訳） 後記（二一六） 藝文志事務會規程（尅）

第二輯（芸文志事務會、一九三九年二月一七日、三六七頁）

記遊詩（宝熙） 牽牛花（陳蒼虬） 今勇齋詩抄（劉恩給） 松江浪（劉盛源）  
平沙（二百枚 古丁） 蒲公英（百枚 小松） 變（詩 外文） 成吉思汗（史詩 百靈）  
金糸籠（四幕劇 君頤） 春之復活（建国文芸一等當選 李夢周）

「藝文志」考（非斯）

在黑暗中（白芷） 我的歌（成絃） 再生集（金音） 冬語（袁犀） 大同大街（長谷川濬作・共鳴訳） 松江紀遊（辛嘉） 我的文學十年（木崎龍） 茱儒的話（芥川龍之介作・莫迦訳）  
創作・鄉仇（夷馳） 麦秋（石軍） 廢墟之書（爵青） 馬成駿（老穆） 桃色輪郭（勵行建） 編輯後記（三六四頁）

第三輯・日本紀元二千六百年記念特輯

（芸文志事務會、一九四〇年六月一日、四二五頁）

藝文志同人群像及像讚（三四頁） 日本紀元二千六百年記念特輯・藝文賀頌（榮厚） 奉祝二千六百年（沈瑞麟） 日本文學的特性（大内隆雄） 日本文學的語言性格（杜白雨） 日本与唐（非斯） 關於明治大正的二名作（木崎龍） 古事記選訳（光天） 芭蕉俳句選訳（百靈） 井原西鶴（古丁訳・武者小路實篤作） 海彦山彦（外文訳・山本有三作） 阿部一族（莫迦訳・森鷗外作） 紀元二千六百年記念東亞操瓢者懇談會經過實録（疑遲 二四四頁）  
現代朝鮮文學論（共鳴訳・李台雨作） 和蒼虬牽牛花（劉思格） 奉題元初太守柳榭図（昨非） 牡丹園雅集分詠得花字（少虬） 讀長文襄公杜少陵詞感賦（真如） 三代金文中女性釈例（羅福頤） 旅窗即稿（辛嘉） 閑話北京（少虬） 半生之記（北村謙次郎） 我的語録

(莫迦) 半生雜詠(詩 外文) 漂流曲(詩 刁陵) 馬家溝(共鳴  
詠·竹內正一作)

創作·戲曲·麦(二百枚 爵青) 鐵檻(百枚 小松) 窪地(石  
軍) 回帰線(疑遲) 金泰棧(杜白雨) 漠寒(独幕 君頤) 春秋  
(四幕 辛夷) 編輯後記(四二三)

### 『讀書人』

(「讀書人連叢」、趙孟原編、芸文志事務所、一九四〇年七月)

(廣告) 徵集藝文志友啟事 讀書人連叢刊行辭 Conie·鄉景(疑  
遲) 山民(爵青) 鯉魚(田村泰次郎著·共鳴詠) 村山知義如是說  
(古丁·爵青記)

童話藝術家羅傑的馬(法朗士著·共鳴詠) 冷語錄 無味(D·  
Q) 孔雀和烏鴉(M·M) 不語和有言(Y·C) 熱情的喪失時代  
(節詠) 理論和作品(節詠) 都市風景線(K·T) 虎和狗(Y·L)  
文評·關於古丁(辛嘉) 讀「鐵檻」(古丁) 讀「麥」寸感(辛嘉)  
哲學雜談(杜白雨) 詩劇·役鬼者(外文) 拜闊夫先生會見記(疑遲)  
某書生的日記(小松) 幾種錯覺(史之子) 我最初讀杜斯退伊夫斯  
基的時候(荻原朔太郎著·爵青詠) 我們的毒舌(二人匿名對談互  
錄) 看此人 詩人桑德堡(小松) 散步的文化譜(研究系) 答問桌  
(研究系) 編輯後記(莫沙)

### 『文學人』

(「讀書人連叢」、趙孟原編、芸文志事務所、一九四〇年八月)

三〇〇〇藝文志友獲得啟事諸論 對於出版界的要望 創作經驗  
我怎樣寫的評論(木崎龍) 我怎樣寫的「鐵檻」(小松) 隨筆談(辛  
嘉) 寸劇 巷尾(辛實) 滿洲文學與作家(杜白雨) 文評·麥不死  
(古丁) 浪漫主義與寫真主義(夷夫)

讀書人論壇·生態文藝芻議(曹夫) 報紙的文藝副刊(蒲柳) 羅振  
玉氏的著作(夏簡) 菊池寬先生來滿有感(M·M) 散步的文化譜  
(孟原) 詩的通信 寄外文(小松) 覆小松(外文) 我們的毒舌(二  
人匿名對談互錄) 看此人 A·紀德(爵青)

### 『小說家』

(「藝文志別輯」、趙孟原編、芸文志事務所、一九四〇年二月)

部落民(小松) 隱疚(石軍) 江上之秋(田兵) 塞上行(疑遲) 某  
城某夜(沫南) 新傳說(爵青) 輯後(爵青)

『藝文志』（芸文書房）

第一卷第一期（創刊号、一九四三年一月、二七二頁）

藝文誌發刊祝詞（市川弘報處長） 文學的提攜（小林秀雄） 文學與文化（天穆） 現代德國文學（現代ドイツ文学、艾凱德） 滿洲演劇隨想（滿洲演劇隨想、吳郎） 生產文學啊、繁盛吧（生產文學よ、繁盛せよ、山田清三郎） 書籍與裝幀（書籍と装丁、顧玲子） 論滿洲的插圖（滿洲の挿絵について、大超） 大東亞文學者大會特輯（大東亞文學者大會特輯、本刊記者） 藝文通訊・從文談（芸文通信・從文談） 我與小說（私と小説、石軍） 我與小說（私と小説、田兵） 我與小說（私と小説、也麗） 我怎樣寫的《頽園》（吳瑛） 怎樣寫的《北歸》（どのように「北歸」を書いたのか、小松） 想念靈非（靈非を偲ぶ、金音） 關於文學的滋味（文學についての感想、大內隆雄） 詩集（詩集）・吉林詩草（吉林詩草、金音） 秋外一章（秋外一章、冷歌）《綠色的谷》給我的印象（「緑なす谷」から受けた印象、勵行健） 四百字小説介紹（四百字小説紹介、牧之）（三篇） 地獄變相（地獄変相、芥川龍之介著・爵青訳） 創作寒流（疑遲） 魏某的淨罪（魏某の浄罪、爵青） 鄰人語（小松） 編

輯後記（編集後記） 藝文誌賞制定發表（芸文誌賞制定發表）

第一卷第二期（一九四三年一月、二五〇頁）

論中國文藝復興（中國文芸復興を論ず、沐華） 蒙疆的文藝界（蒙疆の文芸界、田牛） 聖戰二週年頌歌（聖戰二週年頌歌、金音） 殲敵語（田兵） 永恆的心銘（永遠の銘記、疑遲） 榮光（榮光、爵青） 紫丁香（李喬）（劇本・脚本） 隨筆（隨筆）・散文（散文）・我的書齋（私の書齋、大內隆雄） 我與書（私と本、金音） 我與詩（私と詩、冷歌） 消息（藍苔）（藍苔） 秋日小記（氷壺） 芋粥（芥川龍之介著・莫伽訳） 高瀨舟（森鷗外著・海邨訳） 詩（詩）・東行草（吳郎） 北邊（北辺、松） 夢的沙漠（夢の砂漠、但娣） 陽光和少女（陽光と少女、田瑯） 尋榻記（ベッド探し物語、勵行健） 我（私、劉漢） 藝文通訊（芸文通信） 編輯後記（編集後記）

第一卷第三期（一九四四年一月、二二七頁）

全國決戰藝文家大會記事錄（全國決戰文芸家大會記事錄） 一年來的文學界（一年來の文學界、吳郎） 一年來的放送界（一年來の放送界・姚遠） 座談會怎樣寫滿洲？（座談會どのように滿洲を書くか？） 隨筆特輯（隨筆特輯）・詩的活用（詩の活用、冷歌） 仁、

惻隱之心（仁、惻隱の心、天穆）東行隨抄兩則（東行隨抄二篇、

吳郎）隨想錄（白樺）於天的悲哀（于天の悲哀、莫伽）靜靜的暖流

（靜かなる暖流、小松）新土（新土、也麗）毛衣的故事（セーター

の物語、冰壺）空馬車及其他（空馬車及びその他、田瑯）我和水塔

（私と水塔、田嬢）詩（詩）…浸在憤怒裡（憤りに浸かる、外文）山

椒大夫（山椒大夫、森鷗外著・莫伽訳）創作（創作）…橋（石軍）

濫民（吳瑛）風砂的黄昏（風砂の黄昏、田嬢）編輯後記（編集後記）

### 第一卷第四期（一九四四年二月、二二〇頁）

思無邪（思無邪）…讀書的生活化（読書の生活化）生產文學衍義

（生活文學衍義）關於兒童讀物（兒童読み物について）《上海書》

（「上海本」）中心文體的探求（中心文體の探求）母親（母親）白闊

夫（バイコフ／劉郎譯）西歐的知性的破滅（西歐の知性の破滅、

爵青）文心（文心）出版志（出版誌）舩不舩 北辰 新文藝的倫

理—隨想的短片（田瑯）

萬葉集及萬葉精神（上、張文華）詩…中年（成紘）別友（友だち

と分かれる、丹林）匡廬新詩（匡廬新詩、昨非）短篇小說的首與

尾（短篇小説の首と尾、孟原）說歌（歌について、榮秀）（榮秀）

新生（二百枚長篇）（古丁）小大由之

### 第一卷第五期（一九四四年三月、一九一頁）

卷首…言公《新人創作》 審查當選發表《藝文賞》候補作品集

思無邪…注音的問題（注音の問題、丁）…讀「的文學（「読」の文

學、金）…讀什麼和寫什麼（何を讀むかと何を書くか）和文

壇二題（文壇二題、飛）用漢文寫（漢文で書く、丁）多病的新人

（多病の新人、凡）

四幕劇 遙遠的風沙（遙かなる風砂、辛實）滿洲的傳統與滿洲文學

（滿洲の伝統と滿洲文學、吳郎）說賦（賦について、榮秀）詩帖

炭火（張文華）遊園（金音）翻譯論（翻譯論）…寫在翻譯論之前

（論訳論の前に、大内隆雄）翻譯與文化（翻譯と文化、姜學潛）間

接翻譯論（間接翻譯論、穆儒丐）滿洲譯事瞻顧論（滿洲翻譯事の

回顧、何靄人）學習外國文的苦心談（渥鏡誠）翻譯與語學者的育成

（寺田喜多郎）外來語翻譯問題之檢討（李牧之）從翻譯談到百科辭

典（浪潮）給我幫助最大的幾部辭典（李君猛）譯全集的問題（莫

伽）六號版…文心（文藝寸評、史之）七件事（生活寸評、十口）北

辰（文藝問答、夏川等）書香（書評、朱非等）小說…易占慶（黃流）

### 第一卷第六期（一九四四年六月、二〇四頁）

卷首…言公 思無邪 滿洲地、太也滿洲地（曼）《大漢和詞典》的

驚異(兆) 批評的造境(常) 刻書的倫理(見) “罵人”的官話  
(土) 看燈臺下(名) 大東亞文學的構想(井上司朗) 看此人 崗倉  
天心(汲) 新部落(石軍)

新人創作當選作品：孤航(張薈) 眷戀土地的人們(歐陽二春)  
還鄉(陳塵) 雅魯河畔的牧者(曹人)

詩歌：長城(成絃) 穆儒丐先生(翠羽) 誰是誰非 北辰(問  
答) 小大由之

### 第一卷第七期 (一九四四年五月、奏凱歌而後已特輯、一二〇頁)

必勝吟：殲滅後已(高村光太郎著·古丁訳) 激門的海(岡本潤)  
國民總意之歌(西條八十) 躍起、青年亞細亞(江口隼人) 守護太  
平洋(武富邦茂) 古賀元帥薨(白凌) 鷹揚吧！我們的亞細亞  
(吳郎) 民防衛(甘川) 開拓村(春明) 礦山行(小松) 四千五  
百萬(柳自興) 殺死它！鬼畜美魔(李迺瓊) 吊塞般的婦女子  
(前人) 殺敵(大維)

詩人評傳：屈原(夢非) 詩作：國土頌(成絃) 過渤海國宮殿(石  
軍) 遊鏡泊湖(石軍) 松花江(冷歌) 東亞的古詩源(張文華) 漢  
詩和新詩的韻律(醉僧) 表現滿洲色彩的歌謠(趙任情) 習詩管見  
(成絃) 新詩的吟法(冷歌) 詩話(田瑯) 德國戰爭詩抄(徐白鹽  
訳) 劍的語言(弗列克斯) 向民的祈禱(德麥爾) 向軍旗宣誓(雷

秀爾) 墓銘(雷秀爾) 言公 思無邪 北辰 書香 詩劇大地的女  
兒(藍苓) “大東亞戰爭論文”徵文“勤勞增產手記”募集

### 第一卷第八期 (一九四四年六月、一二〇頁)

言公：要擊滅這樣的文藝 滿洲文學的誕生(田瑯) 翻譯小說：郵  
政局長(泰戈爾著·直夫訳) 遺尿的孩子(上林曉著·直夫訳)  
決戰下日本小說界的動向(寺崎浩著·大維訳) 批評文學的樹立  
(古谷綱武著·雪巖訳) 關於最近的日本文學(大內隆雄·滿文執  
筆) 萬葉集及萬葉精神·下(張文華) 創作：敵愾與童心(疑遲)  
礦山旅館(小松) 詩：豐滿大堰河(草野心平著·直夫訳) 思無邪  
(古丁) 文心 東北辰法彥 書香(古) 七件事(吉) 小大由之

### 第一卷第九期 (一九四四年七月、一二〇頁)

言公：期待新人和新文的出現 思無邪·西南地區文藝宣傳隊(西  
南地區文芸宣傳隊、丁) 期望於礦工文藝報導隊(鈺夫文芸 報道  
隊に期す、方) 報導文藝的提倡(文芸報道的提倡、丁) 協和會  
文藝賞(協和會文芸賞、谷) 全聯印象記(全聯印象、本誌記者)  
特輯 西南紀行(西南紀行)·西南地區與決戰藝文(西南地區と決  
戰芸文、田瑯) 西南雜感(西南雜感、古丁) 祝福熱河(熱河を祝



福、疑遲） 見聞二三（小松） 西南踏查記外瑣記（西南踏查記ほか雜記、田兵） 西南行外記（西南行外記、金音） 決戰下野台劇的構想（決戰下屋台劇的構想、李喬） 短篇…黑穗病（黑穗病、雁里） 手（朝雲） 曙（凱歌第一部、疑遲） 小大由之

第一卷第一〇期（一九四四年八月、一二〇頁）

言公（言公）…再廣一些！（もつと抜けよう） 思無邪（思無邪）  
 第三次大東亞文學者大會（第三回大東亞文學者大會、谷） 望遊休作家奮起（遊休作家の奮起を望む、世） 北辰（北辰） 七件事（七件事） 聖焰（聖焰、黃曼秋） 關於第七回滿洲國美術展覽會（第七回滿洲國美術展覽會について、瀋瑞麟）

特輯（特輯） 兒童文化問題檢討（兒童文化問題檢討）…日本新兒童文化的諸問題（日本新兒童文化の諸問題、平澤熏） 德意志兒童文化的展望（ドイツ兒童文化の展望、蘆谷瑞世） 意大利的兒童文化（イタリアの兒童文化、原田謙次） 滿語裡的兒童用語（滿語の中の兒童用語、何靄人）

最近的滿系文學（最近の滿系文學） 文藝時評（文藝時評、大內隆雄） 論散文固有的方法（散文固有の方法を論じる）（《散文論》第一章） 阿藍（アラン著・甘川訳） 宮本武藏（節譯）（吉川英治著、古丁・爵青訳） 我做了漁民（私は漁民になった、外文） 古詩譯（古

詩訳）…宿山寺（山寺に宿す、項斯原著・也麗訳） 望（凱歌第二部、疑遲） 小大由之

第一卷第二一期（一九四四年九月、一二〇頁）

言公…文事之決戰的完備 談小說（爵青・田瑯対談） 關於「嚶鳴會」（萬金聲） 散文論（阿藍著・甘川訳）  
 勤勞增產手記（王義廷） 獨幕劇大地的呼喚（李喬） 思無邪（古丁） 北辰（湯明） 書香…《虎》與《牡虎》（胡簡）  
 下鄉（古丁） 黑狗屯的故事（張薈） 明（凱歌第三部、疑遲） 小大由之

第一卷第二二期（一九四四年一〇月、一一九頁）

言公…以筆殺敵！ 思無邪…大東亞人傑傳（古丁） 壽穆六田大哥（賀嗣章） 杜甫的精神（夢非） 萊爾修的戰爭詩—德意志文學研究（田瑯訳述） 書齋隨筆（書齋隨筆、大內隆雄） 我的書齋（私の書齋、小松） 我的書齋（私の書齋、非斯） 鳥崎藤村論（鳥崎藤村論、片岡良一著・甘川訳） 座談會 談劇（劇について、吳郎・李喬） 勤勞增產手記（艾麗娟） 更生（田嬢） 小大由之

附録資料編③ 古丁作品一覽

単行本

一九三八年 五月 『奮飛』(短編小説集)、月刊滿洲社

A

一九三八年 七月 『一知半解集』(エッセイ集)、月刊滿洲社

B

一九三九年一〇月 『心』(翻訳)、夏目漱石著、滿日文化協會

一九三九年一二月 『浮沈』(散文詩集)、詩歌叢刊刊行会・滿日文化協會

C

一九四〇年一月 『平沙』滿日文化協會

一九四一年一二月 『学窓と社会』芸文書房

一九四二年 四月 『米英東亞侵略史』芸文書房

一九四二年一月 『譚』芸文書房

D

一九四三年 九月 『竹林』芸文書房

E

一九四三年一〇月 『悲しき玩具』芸文書房

一九四五年一月 『新生』芸文書房

一九四五年?月

『井原西鶴』興亜雜誌社

著作年表

一九三三年

翻譯・森山啓著『新詩歌作法』

五月一日 翻譯・朴能著『你们不是日本人，是兄弟』『文学雜誌』二号

雜誌』二号

六月 「報告文学／伝单文学／牆頭小説—普羅文学的短小的様式」『科学新聞』第一号

翻譯・古川莊一郎著「在芸術理論中的列寧主義的闘争」『水流』第二卷第一期

七月 詩「貴重な経験—天津恒源紗廠女工の闘い」(宝貴的経験—天津恒源紗廠工人的闘争)『水流』第二卷第一期

「工農通訊員與同路人作家—左翼作家的貯水池」『科学新聞』第二号

「組織活動與創作活動的辯證法的統一—和文化主義鬥争」『科学新聞』第三号、「轟」『科学新聞』第四号

翻譯・岩藤雪夫著「紙幣乾燥部の女工」『文学雜誌』三・四合併号

八月

翻譯・岩藤雪夫著「紙幣乾燥部の女工」『文学雜誌』三・四合併号

翻譯・岩藤雪夫著「紙幣乾燥部の女工」『文学雜誌』三・四合併号

翻譯・岩藤雪夫著「紙幣乾燥部の女工」『文学雜誌』三・四合併号

翻譯・岩藤雪夫著「紙幣乾燥部の女工」『文学雜誌』三・四合併号

翻譯・岩藤雪夫著「紙幣乾燥部の女工」『文学雜誌』三・四合併号

翻譯・岩藤雪夫著「紙幣乾燥部の女工」『文学雜誌』三・四合併号

翻譯・岩藤雪夫著「紙幣乾燥部の女工」『文学雜誌』三・四合併号

- 一九三六年  
七月 「玻璃葉」(初出不明) A
- 一九三七年  
二月 「光のない世界」(没亮世界)『新青年』第四七、四八号。 A (「莫里」に改題)
- 四月 「評陶明濬教授著紅樓夢別本」(徐匆) B・「提琴」『明明』第一卷第二期
- 五月 「閑話文壇」 B・「記銀星新劇研究社の処女公演」 B・「皮箱」 A 『明明』第一卷第三期、「春晨」 「笑顔」 D (初出不明)
- 七月 「小巷」 A 『明明』第一卷第五期、「大作家隋話」 B 『明明』第一卷第五期
- 八月 「暗」 A・「論壇的性格」(史之子) B・「知半解抄」 B 『明明』第一卷第六期、「夜語」 D (初出不明)
- 九月 二日 「日本對華的真意」『盛京時報』(瀋陽)
- 一〇月 「晝夜―ある詩のない詩人の日記」(晝夜―一個無詩的詩人的日記) A 『新青年』第六四号、「偶感偶記併余談」 B 『新青年』第六四号、「稻川先生与明明」 B (初出不明)
- 一九三八年  
一月 「說夢以及唾痰」(史之子) B 『明明』第二卷第四期、翻譯・ゴ―ゴリ著「狂人日記」『明明』第二卷第四期
- 三月 「原野」 A 『明明』第三卷第一期、一周年記念号
- 五月 「假寐」 C・「三味篇」 『明明』第三卷第三期
- 七月二日 「賢良篇」 『大同報』の「爆彈評論」欄
- 八月 「荒地」 C 『明明』第三卷第五期
- 「書外篇」(史之子) 『明明』第三卷第六期、「迷途的羔羊」 門外評」 B 『滿洲映画』、「墨書」 C・「偽醫」 C 『明明』第三卷第六期、「悲喜篇」・「注音符号のこと」(史之子) 『月刊滿洲』第一一卷第八号
- 一九三九年  
一月 小説「鏡花記」 E 『新青年』、脚本「哈哈鏡」 E
- 一月 翻譯「魯迅著書解題」 『明明』魯迅記念特輯  
翻譯・石川啄木著「悲哀的玩具」(一九四三年單行本) 『明明』第二卷第三期、翻譯・矢崎彈著「關於日本文壇」(之子) 『明明』第二卷第三期

- 『満洲映画』 一二月  
 小説「盤中記」E 『健康満洲』 三月  
 「二夜」『藝文志』第一輯、「閑談」『新青年』第九八号 六月  
 『平沙』（一九四〇年単行本へ）『藝文志』第二輯、「消閒雜記」『文選』第一輯 九八号  
 一九四一年 七月  
 「満洲文芸家協会創立に際して一・二」『満洲日日新聞』  
 ガルシン著「アッターレア・プリンケプス（阿忒萊・蒲靈蒲）・「夢がたり（夢談）」・モーパッサン著「給仕、もう一杯（堂宿再來一杯）」『訳叢』、「全聯傍聴記」『満洲日日新聞』 一〇月  
 一九四〇年 二月  
 「東京散記 上・下」「東京散記・日本の農民」『朝日新聞』二六、二七日  
 「日本便り」『満洲文話會通信』 三月  
 「満洲文芸通信」『文学界』第七卷第四号 一九四二年 四月  
 「バイコフ氏の啓示」『満洲文話會通信』 五月  
 翻訳「井原西鶴」（後単行本に）『藝文志』第三輯 六月  
 一五日 「人間的結合 友人的激励 満・日系文化人の提携に関して」『満洲文話會通信』 一月  
 「幾種錯覚」（史之子）・「讀「鐵檻」・爵青と共訳「村山知義如是説」『読書人』 七月  
 「花園」E・「麦不死」『文学人』、「話」的話 八月  
 D『満洲国語』（満語版）第三号 二月  
 「話」の話『満洲国語』（日語版）第五号 三月  
 「建国十年頌」『建国十年 慶祝詞華集』 満洲文芸家協会編、芸文社  
 「沈潜と胎動」『大同報・文学週刊』（二四日、長春）、「雑文之談」『盛京時報』（一、八、一四日）、「文学和電影」D『電影画報』新年号、翻訳・アラン著「少年英雄陶而第」『新満洲』（一、二月）、詩「歡喜」『大同報』（二九日）  
 「日本文学の撮り方」『藝文』（芸文社）  
 「建国十周年を迎へ手ハガキ回答」『藝文』（一九

一二月

「万葉源氏と載道言志」一〜四」『満洲日日新聞』

六月

「思無邪」聯盟『藝文志』第八号、「『藝文志』的

文志」第七号

文志」第七号

「藝文創造」『朝日新聞』中鮮版（一一日）、「大東

五月

翻訳・高村光太郎著「殲滅せんのみ」聯盟『藝

文志』第七号

化』

日）、「作品主義の効果―満洲文学に就いての走

四月

「決戦満洲文化的方向」大内隆雄と対談『青年文

文学者大会を終えて』『満洲日日新聞』（一〇

志』第五期

上・下』『満洲日日新聞』（一〇、一一日）、「東亜

『並欣集』（興亜雜誌社）、「思無邪」聯盟『藝文

日新聞』（七日）、「満洲文学に就いての走り書き

二月

「新生」聯盟『藝文志』第四号、「知識的悲劇」

新聞』（四日）、「大東亜文学者大会行」『満洲日

一九四四年

文通信』、「同軌―大東亜文学者列車」『満洲日日

大内隆雄訳「文学者の決戦」『満洲公論』第二卷

日）、「アジア文学は一つ」『朝日新聞』（一五

一〇月

「大東亜文学的創造」『青年文化』

日）、「百戦百勝於此事見一般」『朝日新聞』（三日）、

一月

「誌上聚談」『青年文化』、「各国の傑作登載共同

「日本の印象を語る座談会」『朝日新聞』（七、八

学の基調」『文学報国』

一〇月

「日本は太陽」『朝日新聞』（二八日）夕刊

九月

「大東亜文学的創造」『青年文化』

八月

「文壇墮像」『盛京時報』

八月

「漫記」『青年文化』、「文壇墮像」『盛京時報』

七月

「古丁・林房雄対談」『藝文』第一卷第五号

六月

「関於小松」『満洲作家論集』（陳因編、実業印書館）

六月

「竹林」E『麒麟』六月号

六月

「小林秀雄氏を囲んで」『藝文』

五月

「満系随筆集」『満洲日日新聞』

五月

「漫記」『青年文化』、「文壇墮像」『盛京時報』

四月

「古丁・林房雄対談」『藝文』第一卷第五号

一九四三年

「漫記」『青年文化』、「文壇墮像」『盛京時報』

三月

「古丁・林房雄対談」『藝文』第一卷第五号

一九四三年

「漫記」『青年文化』、「文壇墮像」『盛京時報』

二月

「古丁・林房雄対談」『藝文』第一卷第五号

一九四三年

「漫記」『青年文化』、「文壇墮像」『盛京時報』

一月

「古丁・林房雄対談」『藝文』第一卷第五号

一九四三年

「漫記」『青年文化』、「文壇墮像」『盛京時報』

「古丁・林房雄対談」『藝文』第一卷第五号

（二〜五日）、「北辺鎮護の任務」『文芸』

四二年三月号、芸文社）、「第一建國から第二建

（二〜五日）、「北辺鎮護の任務」『文芸』

創刊』『書影』（満洲書籍配給株式会社）

七月 「西南雑感」 聯盟『藝文志』第九号

八月 「思無邪」 聯盟『藝文志』第一〇号、翻訳・吉川

英治著「宮本武蔵」（爵青と共訳） 聯盟『藝文

志』第一〇号、「暗さについて」『藝文』

九月 「下郷」 聯盟『藝文志』第一号、「撃滅」『麒麟

麟』九月号

一〇月 「大東亜人傑伝」 聯盟『藝文志』第一二号

十一月 日本語訳「西南雑感」『藝文』

一九四五年

一月 「新生自説」『青年文化』第三卷第一期

七月 「山海外経」『文友』（上海）

一九三八年四月、『明明』第三卷第二期に掲載された、ゴリキの「海燕曲」の翻訳者Sは古丁の可能性があるが、確定できない。

附録資料編④ 古丁年譜

年	月	古	丁
一九一四	9		二九日、吉林省長春県に生まれる
一九二〇			長春公学堂に入学
一九二六			南満中学堂に入学
一九二八	6		四日、張作霖爆死事件
一九三〇	9		南満中学堂を卒業し、東北大学教育系に入学
一九三一	9		一八日、満洲事変、関東軍瀋陽等占領
一九三二	2		日本軍哈爾濱占領、日本軍熱河進攻。「満蒙新国家建国会議」開催
	3		満洲国「建国宣言」発表。愛新覚羅溥儀が「執政」に就任し、「満洲国」建国
	7		満洲国協和会発会
	8		上海「一・二八事件」
	9		北京大学文学院中国文学科に入学
一九三三	5		森山啓著『新詩歌作法』を翻訳して出版（未確認） 一五日、朴能著「你们不是日本人，是兄弟」を翻訳、『文学雑誌』二号に発表
			日本と中華民国の間に「塘沽協定」が調印される
			「満洲国」および世界

一九三三	6	二四日、報告文学／伝単文学／牆頭小説―普羅文学的短小的様式」を『科学新聞』第一号に寄稿	
	7	一日、「工農通訊員與同路人作家―左翼作家的貯水池」を『科学新聞』第二号に発表 一〇日、翻訳・古川莊一郎著「在芸術理論中的列寧主義的闘争」、創作詩「貴重な経験―天津恒源紗廠女工の闘い」（宝貴的経験―天津恒源紗廠工人的闘争）を『水流』第二卷第一期に発表 二二日、「組織活動與創作活動的辯證法的統一―和文化主義鬥争」を『科学新聞』第三号に発表 二九日、「轟」（詩）を『科学新聞』第四号に発表 ― 左聯北方部組織部長に就任、逮捕	
	8	四日、中山公園「来今雨軒」にて記者会見し、左翼作家および共産党非難と見なされる 一五日、岩藤雪夫「紙幣乾燥部の女工」を『文学雑誌』三・四合併号に発表	四日、中国左翼作家連盟北方部大逮捕（方愷・蔵雲遠ら逮捕）事件発生
	9	北京大学を休学し、長春に戻る	
	10	※「吉生」「頹敗」を書く、	二四日、「満洲国」で『出版法』が公布される ― 蕭軍・蕭紅短編集『跋涉』出版
	12	「満洲国」国務院総務庁統計処属官となる	
一九三四	3		「満洲国」皇帝溥儀が登極



		一九三七						一九三六			一九三五	
3	2	1	12	9	7	6	4	2	11	8		10
中国語総合雑誌『明明』創刊	「光のない世界」（没亮世界、後「莫里」に改題）を『新青年』第四七・四八合併号に発表	※「変金」を書く	疑遅、外文などと「芸術研究会」を結成	※「小巷」、「光のない世界」（没亮世界、後「莫里」に改題）、「昼夜―ある詩のない詩人の日記」（晝夜―一個無詩的詩人的日記）を書く	※「玻璃葉」を書く							初訪日（内閣統計局統計職員養成所聴講生） <sup>2</sup>
			「西安事変」（国民党と共産党抗日統一戦線成立） 一日、治外法権撤廃実施、満鉄附属地行政権の委譲と調整			満洲文話会結成。関東軍が「北満共産党全面逮捕の命令」を出し、「黒竜江民報事件」	満洲弘報協会設立	二六日、日本「二・二六事件」	二八日、中国共産党『抗日救国宣言』発表	一日、中国共産党中央『抗日救国のために全国同胞に告げる書（爲抗日救国告全国同胞書）（“八一宣言”）が発表される	「満洲国」が北満鉄道を買収、北満特別区を廃止	

										一九三七
11	10	9	8	7	6	5	4			
一日、『明明』魯迅記念特輯に翻訳「魯迅著書解題」掲載	三〇日、「昼夜―ある詩のない詩人の日記」(晝夜―一個無詩的詩人的日記)と「偶感偶記併余談」を『新青年』第六四号に発表	二日、「日本対華的真意」を『盛京時報』(瀋陽)に発表	一日、『明明』創作特輯(第一卷第六期)に「暗」「論文壇の性格」(史之子)を発表	一日、「小巷」を『明明』第一卷第五期に発表		「閑話文壇」「記銀星新劇研究社の処女公演」「皮箱」を『明明』第一卷第三期に寄稿	「評陶明濬教授著紅樓夢別本」(徐匆)、「提琴」を『明明』第一卷第二期に	小説「皮箱」を書く		
二〇日、蒋介石政府、重慶遷都宣言		二三日、第二次国共合作	一三日、上海事変	朝鮮半島で「内鮮一体」を実施し始める	株式会社満洲国通信社設立	七日、盧溝橋事変で日中全面戦争開始	第一次五カ年計画実施開始	「哈爾濱口琴社事件」	満洲図書株式会社設立	
		満洲文話会新京支部結成	満洲映画協会設立		満洲文話会設立	一日、山丁が『明明』第一卷第五期に山丁「郷土文学と『山丁花』」発表、「郷土文芸」を提起	「学制改正令」「学制要綱」など発布			

									一九三八
									12
									一日、「明明」日本文学紹介特輯（第二卷第三期）に、翻訳・石川啄木著「悲哀的玩具」が掲載される
									一日、「説夢以及唾痰」（史之子）とゴーゴリの「狂人日記」翻訳を『明明』第二卷第四期に寄稿
									一日、「原野」を『明明』第三卷第一期、一周年記念号に寄稿
									一日、「假寐」「三味篇」を『明明』第三卷第三期に寄稿
									二〇日、「城島文庫」を刊行開始、「奮飛」が「城島文庫」の一冊として出版される
									一日、「荒地」を『明明』第三卷第五期に発表
									二一日、「大同報」「爆弾評論」欄に「賢良篇」を発表 華北、華南地方を旅行 『二知半解集』が刊行される
									一日、「墨書」「偽醫」を『明明』第三卷第六期に発表
									一日、「書外篇」（史之子）と『迷途的羔羊』門外評を『満洲映画』に発表。「満人文芸家、満洲電影動向 座談会」に参加（『満洲映画』）
									一三日、日本軍、南京占領事件を起こす
									一四日、傀儡政権、中華民国臨時政府（北京）成立 満日文化協会から「東方国民文庫」刊行開始
									一六日、近衛第一次声明（国民政府を相手にせず） 本年から「満洲国」の国民学校で日本語を「国語の一つ」として教授するようになる
									朝鮮半島の学校教育で朝鮮語使用が禁止され、日本語使用が強要される
									一日、日本『国家総動員法』公布
									毛沢東が延安抗日戦争研究会で「持久戦を論ず」講演する
									一日、毛沢東「持久戦を論ず」が週刊『解放』（一九三七年四月二四日、延安創刊）第四三・四四期合本に発表される
									一一日、張鼓峰事件勃発

一九三九									一九三八			
9	8	6		5	3	1		12	11	10	9	8
『満人作家小説集 原野』が大内隆雄訳で日本の三和書房より出版される	「詩歌叢刊」刊行開始	芸文志事務会成立 「閑談」を『新青年』第九八号に発表		一八日、「一夜」を『藝文志』第一輯に発表	小説「盤中記」を『健康満洲』に発表	小説「鏡花記」を『新青年』に発表		一日、脚本「哈哈鏡」が『満洲映画』に掲載される	『蜜月快車』を観る『満洲行政』（第五巻）		一日、『明明』実質上の最終号刊行	一〇日、「悲喜篇」「注音符号のこと」（史之子）を『月刊満洲』第一二巻八号に発表
満洲国語研究会設立	一日、第二次世界大戦開始			四日、ノモンハン事件	日本司法部出身の武藤富雄が総務庁弘報処長となる			を 発表	三日、第二次近衛内閣「東亜新秩序建設」を声明	日本軍、広東・武漢占領	日本従軍作家陸・海軍、詩曲部隊出發	
								二二日、近衛三原則声明（善隣友好、共同防共、経済提携）を 発表	三日、第二次近衛内閣「東亜新秩序建設」を声明	一日、毛沢東「持久戦を論ず」日本語訳が『改造』一〇月号に掲載される		

		一九四〇			
		12	10		
		<p>三〇日、『浮沈』を満日文化協会・詩歌叢刊刊行会から出版</p> <p>―「消閑雑誌」を『文選』第一輯に発表</p> <p>―『文芸春秋』第一七巻第二四号に「満洲文学雑誌」を寄稿</p>	<p>翻訳・夏目漱石著『心』を満日文化協会から「東方国民文庫」の第一五編として出版</p> <p>三一日、『奮飛』が第四回文芸盛京賞受賞</p> <p>一七日、『藝文志』第二輯に「平沙」発表</p>		<p>『満洲浪漫』発行</p> <p>甘粕正彦が満映の理事長となり、満映人事改革に着手</p> <p>満洲放送文芸協会成立（徐長吉が審査員）</p> <p>満洲書籍配給株式会社設立</p> <p>『文選』第一輯が文選刊行会から刊行</p>
		1	2		
		<p>二二日、新京放送局・満華文芸交歓放送（ラジオ）で満洲新文芸の展望を語る</p>	<p>五日、紀元二千六百年記念のため「満洲国」政府より特派され、外文と「のぞみ」で日本へ。木崎龍同行</p> <p>二六日、「東京散記 上・下」を『朝日新聞』に掲載</p> <p>二七日、「東京散記・日本の農民」を『朝日新聞』に掲載</p>		<p>紀元二千六百年慶祝のため「満洲国」皇帝訪日</p> <p>満洲出版協会成立</p> <p>下旬に、山本有三著・藤更（外文）訳「山彦海彦」の新京文芸劇団作品が呉郎の演出により新京放送局で放送される</p>
		3			
		<p>四日、「熱河丸」で日本から帰国。大連で文話会大連支部に歓迎される</p> <p>六日、新京に到着</p> <p>一四日、新京大興ビル四階にて、文話会新京支部三月例会「訪日感想座談会」に参加</p> <p>一五日、『満洲文話會通信』に「日本便り」を寄稿</p> <p>二二日、「平沙」が第二回民生部大臣文芸賞受賞</p>			<p>二〇日、王精衛南京国民政府成立</p>

一九四〇	<p>3 三〇日夜、国都飯店で受賞披露宴開催</p> <p>― 訪日の様子を報告</p>	
4	<p>六日、満洲翻訳研究会（準備中は「満洲翻訳家協会」という）の発令式が新京弘報協会会議室に於いて開催。大内隆雄や杉村勇造と並んで委員となる</p> <p>「満洲文芸通信」が『文学界』第七巻四号に掲載</p>	<p>訪日から帰った溥儀が「回鑾訓民詔書」を發布</p> <p>満洲翻訳家協会結成。日系は大内隆雄、満系は古丁を中心に</p>
5	<p>一四日、満洲日日新聞社主催バイコフ歓迎会</p> <p>一五日、バイコフを囲む座談会に参加</p> <p>― 『満洲文話会通信』に「バイコフ氏の啓示」を寄稿</p> <p>二九日午後、芸文志事務会の来満巡演朝鮮劇団「高協」歓迎会に出席</p>	<p>詔書奉読日満一徳一心を誓う国民大会が開かれる</p> <p>『詩季』創刊</p> <p>四日、岡部子爵、羽田京大総長、池内東大名誉教授により、「東方文化講演会」が新京協和会館で開催</p>
6	<p>一日、国都グリルにて村山知義を囲む演劇座談会に参加</p> <p>五日、奉天協和劇団新京来演を機に開催された戯曲研究座談会に参加</p> <p>一五日、『満洲文話会通信』に「人間的結合 友人的激励 満・日系文化人の提携に関して」を寄稿</p> <p>二二日、文話会の歓迎座談会に参加</p> <p>二五日より約三週間、チチハル海拉爾方面へ出張</p> <p>― 『藝文志』第三輯刊行、武者小路実篤「井原西鶴」の翻訳を発表</p>	<p>三〇日、民生部講堂で満洲文話会三周年総会開催。組織改編、満系との協働などを議題に</p> <p>― 文話会より在満皇軍将士慰問文集『満洲よもやま』発刊</p> <p>― 溥儀、第二次訪日して天照大神を持ち帰る</p> <p>『満洲国語』満語版刊行</p>

<p>10</p> <p>ペスト騒ぎで一カ月近く健康隔離生活を送る</p>	<p>9</p> <p>一日、『話』の話を『満洲国語』（日語版）第五号に</p> <p>一〇日より一〇日間、文話会の派遣により、外文・辛実と共に資料収集のため、西安県方面の農村へ</p> <p>二〇日、文話会本部役員会により、大内隆雄・木崎龍らと文話会賞銓衡委員となる</p> <p>二六日、文話会新京支部九月例会を兼ねて岸田国土を囲む座談会に参加</p>	<p>8</p> <p>文話会改組により文芸部委員となる（吉野治夫が事務局長）</p> <p>九日、文話会主催の菊地寛らの歓迎茶話会出席</p> <p>『話』の話』を『満洲国語』（満語版）第三号に</p> <p>大内隆雄による日本語訳『平沙』が日本中央公論社から出版される</p> <p>「花園」「麦不死」を『文学人』に発表</p>	<p>7</p> <p>「幾種錯覚」（史之子）、「讀『鐵檻』」、爵青と共訳「村山知義如是説」を『月刊読書人連叢・読書人』に寄稿</p>
<p>『文選』第二輯発行</p> <p>四日、文話会銓衡委員により、文芸盛京賞に小松の「鉄檻」が推薦される</p> <p>一二日、日本で大政翼賛会結成</p>	<p>満洲国「雑誌指導統制要綱」が制定される</p> <p>九月末、『評論人』が出版</p>	<p>小松他著・大内隆雄訳『蒲公英』が三和書房から出版</p> <p>『文選』第二輯刊行</p> <p>菊地寛、小林秀雄、中野実三が満洲新聞社に招聘され、三週間満洲を視察</p>	<p>帝宮内庭に建国神廟が建てられ、天照大神が「満洲国」建国神として祀られる</p> <p>二三日、第二次近衛内閣成立</p>

						一九四〇
4	3	1	12	11	10	
		二七日、新京軍人会館にて、満洲雑誌社による文話会役員招待懇談会に参加	二四日、新京公会堂にて、文話会文芸関係者座談会に出席（満系文芸の現状および地方行政の現状、満系知識人の傾向等について）	一〇日、ボードレール著「若き文学者たちへの忠告（對於青年文學者的忠告）」の翻訳を『作風』に	五日、『平沙』単行本が「東方国民文庫」第二二編として満日文化協会から出版される	
						<ul style="list-style-type: none"> <li>― 雑誌『満洲婦人』（呉瑛編）、文芸雑誌『学芸』（李文湘編）創刊</li> <li>― ベストのため、民生部の招聘により新京に到着した石井柏亭の講演会と座談会が中止</li> <li>― 日本で大東亜省設立</li> </ul>
						<ul style="list-style-type: none"> <li>― 一〇日、作風刊行会より『作風』創刊号（翻訳特輯）が刊行</li> <li>― 毎月叢編第一輯『文最』発行</li> </ul>
						<ul style="list-style-type: none"> <li>― 芸文志事務会の「讀書人連叢」の『詩歌人』出版</li> </ul>
						<ul style="list-style-type: none"> <li>― 満洲弘報協会解散</li> </ul>
						<ul style="list-style-type: none"> <li>― 「国務院総務庁分科規程」発布。これにより、文化事業についての全権限（検閲を含む）が、民生部から国務院弘報処へ移管</li> </ul>
						<ul style="list-style-type: none"> <li>― 二三日、「藝文指導要綱」（新京日満軍人会館にて）発布</li> </ul>
						<ul style="list-style-type: none"> <li>― 芸文志事務会と作風刊行会同人が共同で『泰東日報』文芸欄「七日譚」を編集（内容は批評、書評、雑記、隨筆等に傾く、外文・夷夫編）</li> </ul>
						<ul style="list-style-type: none"> <li>― 一三日、日ソ中立条約調印</li> </ul>



	12	11		10	8	7	5
	中島健蔵『学窓と社会』（学生与社会）の翻訳が芸文書房から出版される	芸文書房で小松展（小松の原稿、写真など）	『全聯傍聴記』『満洲日日新聞』	株式会社芸文書房を設立 『訳叢』出版。翻訳・ガルシン著「アッタレーア・プリンケプス」（阿忒萊・蒲靈蒲）、「夢がたり」（夢談）、モーパッサン著「給仕、もう一杯」（堂宿再来一杯）が収録される		「満洲文藝家協会創立に際して一・二」『満洲日日新聞』 満洲文芸家協会委員となる	総務庁統計処辞職
戦争」と決定 一二日、日本政府が盧溝橋事変も含めて戦争名称を「大東亜	八日、真珠湾事件、日米戦争開始 九日、蒋介石重慶政府、日独伊に宣戦布告			一八日、東条英機内閣成立	二五日、満洲芸文聯盟結成（新京中銀倶楽部） 発布	二七日、満洲文芸家協会成立（委員長山田清三郎、國務院講堂にて） 二五日、弘報三法『満洲国通信社法』『新聞法』『記者法』が	疑遅、都合により國務院総務庁を辞職 五〜八月、日本軍、重慶を大空襲

					一九四二
					1
		<p>一日、「文学和電影」を『電影画報』新年号に発表</p> <p>― 翻訳・アラン著「若き英雄トルデイ」（少年英雄陶而第）を『新満洲』に連載開始</p> <p>一、八、一四日、「雜文之談」を『盛京時報』に連載</p> <p>一四日、「沈潜と胎動」を『大同報・文学週刊』（長春）に発表</p> <p>一九日、「歡喜」（詩）『大同報』</p> <p>「建国十年頌」『建国十年 慶祝詞華集』（満洲文芸家協会編、芸文社）</p>			『藝文』創刊（芸文社）
		2			一五日、日本軍がシンガポール占領
		<p>「日本文学の撮り方」を『芸文』（芸文社）に発表</p> <p>「解半知先生一夕談話記」（『麒麟』二月号）</p>			『満洲藝文通信』が満洲芸文聯盟から発行される
		3			
		<p>「建国十周年を迎えてハガキ回答」（『藝文』一九四二年三月号）</p> <p>「第一建國から第二建國へ」（解半知、『藝文』三月号）</p>			
		4			一八日、アメリカ陸軍機が初めて東京空襲
		<p>「古丁・林房雄対談」『藝文』第一巻第五号（一九四二年四月、会談は二月一四日）</p>			「満洲国産業開発第二次五カ年計画」実施
		5			七日、日本軍が東南アジア全域を制覇
		<p>「満系随筆集」『満洲日日新聞』</p>			二六日、日本文学報国会結成
					中華民國国民政府主席汪精衛が「満洲国」を訪問

<p>6</p> <p>「竹林」を『麒麟』六月号に掲載</p>	<p>古丁他編『満洲国各民族創作選集』第一輯が創元社から刊行</p>	<p>8</p> <p>「文壇墮像」を『盛京時報』に発表</p>	<p>9</p>	<p>10</p> <p>二八日、「日本は太陽」『朝日新聞』夕刊</p>	<p>11</p> <p>三日、「百戦百勝於此事見一般」『朝日新聞』</p> <p>四日、「同軌—大東亜文学者列車」を『満洲日日新聞』に発表</p> <p>三～五日、第一回大東亜文学者大会に出席</p> <p>七日、「大東亜文学者大会行」を『満洲日日新聞』に発表</p> <p>七～八日、「日本の印象を語る座談会」『朝日新聞』</p> <p>一〇日、「東亜文学者大会を終えて」</p> <p>— 「作品主義の効果—満洲文学に就いての走り書き」を、『朝日新聞』中鮮版に発表</p> <p>一〇～一一日、「満洲文学に就いての走り書き 上・下」を、『満洲日日新聞』に発表</p> <p>一一日、「独自の藝文創造」を『朝日新聞』中鮮版に発表</p> <p>一五日、「アジア文学は一つ」『朝日新聞』夕刊</p>	<p>第一回大東亜文学者大会開催</p> <p>日本、大東亜省設置を決定</p> <p>「満洲国」建国一〇周年記念式典</p>
---------------------------------	------------------------------------	----------------------------------	----------	--------------------------------------	--	---

			一九四二
			11
			二〇日、『譚』が駱駝叢書の一冊として芸文書房から出版される
			二一日、文芸家協会委員会に出席
			「大東亜文学者大会的収獲」『満洲藝文通信』
		12	「万葉源氏と載道言志一〜四」を二〜五日の『満洲日日新聞』に発表
			四・五日、「全国決戦芸文家大会」に参加。本年度全聯、第二回大東亜文学者大会参加の経過について報告、そして、政府諮問案答申委員会の委員長に選ばれる
			二六日、満洲文芸家協会の派遣により、「亜細亜号」で大連へ仲賢禮の病氣見舞いに赴く
			「北辺鎮護の任務」を『文芸』に発表
			「大東亜文学者大会的収獲」を『満洲藝文通信』に発表
		1	一一日、満洲文芸家協会委員会に出席。この会議により大東亜連絡部、審査部、企画部新設
			大東亜連絡部の部長となる
	2		一日、関東軍報道演習に派遣された山田清三郎等の帰還歓迎懇談会に出席
3			二八日、芸文会館で行われた満洲文芸家委員会に参加（議題の一つは満文月刊文学雑誌の発刊促進であった）
			「協和会運動基本要綱」が発布
			九日、汪精衛南京国民政府、対米英宣戦布告、日華共同宣言発表
			「満洲国基本国策大綱」発表
			一九四三

<p>9</p> <p>小説集『竹林』が芸文書房株式会社から出版される</p> <p>『青年文化』の「誌上聚談」(四一〜四三頁)に参加</p> <p>新京、哈爾濱での文学者大会満洲代表の結果報告講演に参加</p> <p>「各国の傑作登載共同発表機関誌刊行」「統治五十年を貫く」</p> <p>「満洲文学の基調」を『文学報国』に</p>	<p>8</p> <p>一四日、芸文会館で開催された日文純芸文誌『藝文』発刊企画委員会に参加</p> <p>二五〜二七日、第二回大東亜文学者大会に出席</p> <p>「漫記」を『青年文化』に、「文壇墮像」を『盛京時報』に発表</p> <p>「小林秀雄氏を囲んで」座談会に参加、その記事が『藝文』八月号に載る</p>	<p>6</p> <p>二〇日、芸文書房第一回株主総会</p> <p>「関於小松」を『満洲作家論集』(陳因編、実業印書館)に収録</p>	<p>5</p> <p>「武者小路実篤先生の印象 上・中・下」を八〜一〇日の『満洲日日新聞』に発表</p>	<p>4</p> <p>一八日、國務院講堂で満洲芸文各委員会役員全国大会に出席</p>	
<p>八日、イタリアのバドリオ政権、連合国に無条件降伏</p>	<p>『青年文化』創刊</p> <p>一五日、第二回大東亜文学大会が東京で開催</p> <p>ビルマの独立が承認される</p>	<p>柳竜光をリーダーとする華北作家協会が来満視察</p>	<p>一一日、情報局第一部長に転任する武藤富男前弘報処長の弘報藝文関係連合送別会</p> <p>三一日、日本御前会議。大東亜略指導大綱が採択</p>	<p>「米英撃滅詩」の朗読運動を展開するために協和会から撃滅詩の編纂を委託され、二日、文芸家協会撃滅詩編纂打ち合わせ会が開かれる</p>	

									一九四三
									10
									「大東亜文学的創造」(九五頁)を『青年文化』に発表
									石川啄木『悲しき玩具』の翻訳単行本を芸文書房より刊行
									「文学者の決戦」(大内隆雄訳)を『満洲公論』第二巻に発表
									『藝文志』(満洲芸文聯盟機関誌)が芸文書房から創刊
									座談会「いかに満洲を書くか」(怎样写満洲?)の司会(聯盟『藝文志』第三期)
									1
									一九四四
									2
									一日、長編小説「新生」を聯盟『藝文志』第四号に発表
									五日、「知識的悲劇」を『並欣集』に(興亜雜誌社)
									3
									古丁他編『満洲国各民族創作選集』第二輯が創元社から刊行
									4
									『青年文化』の「決戦満洲文化的方向」で大内隆雄と対談(八二～八四頁)
									5
									一日、翻訳・高村光太郎著「殲滅せんのみ」が聯盟『藝文志』第七号に掲載
									6
									一日、「思無邪」を聯盟『藝文志』八号に
									7
									「『藝文志』的創刊」を『書影』(満洲書籍配給株式会社)に発表
									「西南雑感」を聯盟『藝文志』第九号に発表
									11
									五日、東京で大東亜会議、『大東亜宣言』
									10
									一一日、日本のフィリピンにおける軍政が撤廃
									一八日、東条内閣総辞職
									二二日、小磯内閣成立

一九四七	雑誌編集『東北文芸』	8	7	5	3	2	1	11	10	9	8
一九四六		8	7	5	3	2	1	11	10	9	8
一九四七		8	7	5	3	2	1	11	10	9	8
一九四六		8	7	5	3	2	1	11	10	9	8
一九四七		8	7	5	3	2	1	11	10	9	8
一九四六		8	7	5	3	2	1	11	10	9	8
一九四七		8	7	5	3	2	1	11	10	9	8
一九四六		8	7	5	3	2	1	11	10	9	8
一九四七		8	7	5	3	2	1	11	10	9	8

一九四八	哈爾濱東北文芸協會所屬哈爾濱評劇院管理委員會主任	
一九四九	瀋陽唐山評劇院院長	一〇月、中華人民共和國成立
一九五〇	東北戲曲新報社秘書兼編集	
一九五八	極右分子・反革命分子として逮捕、投獄	反右鬪争開始
一九六四	獄中にて死亡	
一九七九	名誉回復	

1 ※は発表年月ではなく、作者脱稿の年月である。

2 石田卓生『満洲国』官吏としての古丁 公文書に残る日本研修の記録から『植民地文化研究』六、二〇〇七年七月、不二出版。